

# グローバル・ロボティクス株式ファンド (為替ヘッジあり・1年決算型)

追加型投信／内外／株式

## 交付運用報告書

第9期(決算日2025年7月22日)

作成対象期間(2024年7月23日～2025年7月22日)

第9期末(2025年7月22日)	
基準価額	24,242円
純資産総額	14,538百万円
第9期	
騰落率	△ 0.5%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要な事項にかかる情報を記載したものです。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「グローバル・ロボティクス株式ファンド(為替ヘッジあり・1年決算型)」は、2025年7月22日に第9期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されているロボティクス関連企業の株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<643351>

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

www.nikkoam.com/

2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社は「アモヴァ・アセットマネジメント株式会社」に社名変更します。社名変更後URL: www.amova-am.com

当運用報告書に関するお問い合わせ先

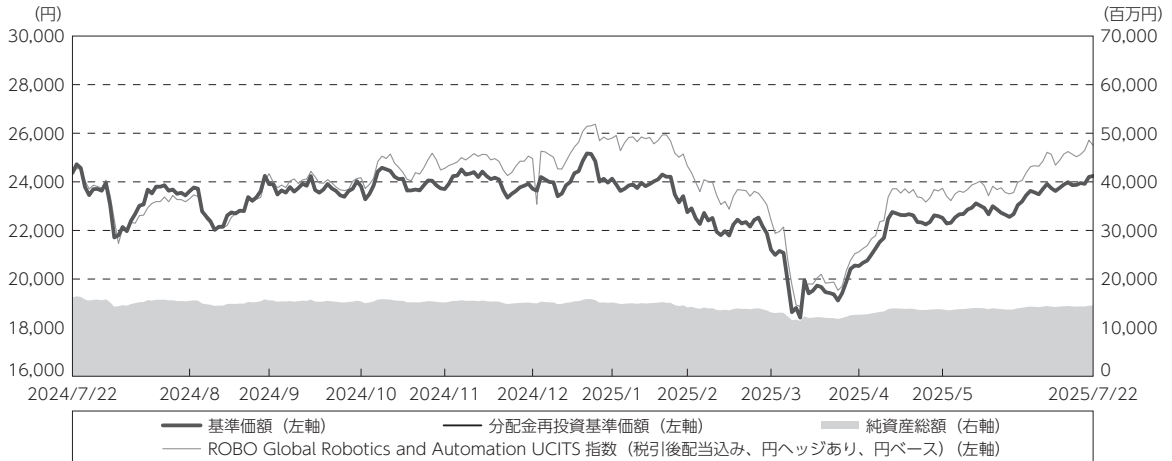
コールセンター 電話番号: 0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

（2024年7月23日～2025年7月22日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびROBO Global Robotics and Automation UCITS指数（税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース）は、期首（2024年7月22日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数（税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース）は当ファンドの参考指数です。

### ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されているロボティクス関連企業の株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。また、実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

### <値上がり要因>

- ・米国連邦準備制度理事会（FRB）が利下げに転換したことに加え、米国大統領選挙でトランプ氏が勝利したことで経済政策などへの期待が高まり、米国を中心に株式市場が全体的に上昇したこと。
- ・AI（人工知能）需要に対して楽観的な見方が広がったことや、2025年4～5月の企業決算発表において、AI関連の半導体企業やソフトウェア関連企業からの好決算の発表が続き、これを受けてハイテク関連銘柄の株価が上昇したこと。

<値下がり要因>

- ・中国のスタートアップ企業による低コストの生成AIモデル開発のニュースを受けて、AIの分野をリードしてきた米国企業の優位性に懸念が生じ、2025年2月後半以降、半導体関連銘柄を中心に世界的に株価が下落したこと。
- ・2025年4月に入って米国トランプ政権が相互関税を打ち出したことから、投資家心理が悪化したことや、中国がこの関税政策に応酬したことなどを受けて市場が混乱したこと。

1万口当たりの費用明細

(2024年7月23日～2025年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	447	1.936	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(216)	(0.935)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(216)	(0.935)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	( 15)	(0.066)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	3	0.011	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	( 3)	(0.011)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	1	0.005	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	( 1)	(0.005)	
(d) そ の 他 費 用	9	0.039	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	( 3)	(0.013)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	( 1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 等 ）	( 5)	(0.021)	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用、運用において利用する指数の標準使用料など
（ そ の 他 ）	( 0)	(0.001)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	460	1.991	
期中の平均基準価額は、23,096円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

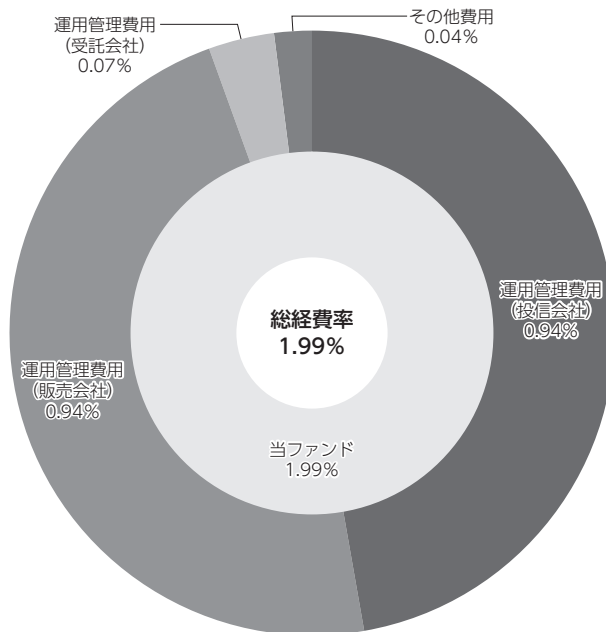
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.99%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認ください。期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2020年7月20日～2025年7月22日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 分配金再投資基準価額およびROBO Global Robotics and Automation UCITS指数（税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース）は、2020年7月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2020年7月20日 決算日	2021年7月20日 決算日	2022年7月20日 決算日	2023年7月20日 決算日	2024年7月22日 決算日	2025年7月22日 決算日
基準価額 (円)	15,412	20,581	17,339	21,317	24,366	24,242
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	33.5	△ 15.8	22.9	14.3	△ 0.5
ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数 (税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース)騰落率 (%)	—	38.4	△ 19.5	22.5	△ 6.3	4.7
純資産総額 (百万円)	21,535	23,152	16,777	16,545	16,211	14,538

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。  
 (注) 騰落率は1年前の決算相当日との比較です。  
 (注) ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数（税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース）は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。

**投資環境**

（2024年7月23日～2025年7月22日）

**（株式市況）**

期間の初めは、米国の雇用関連指標の悪化などを受け、2024年8月の初めに株式市場は一時大きく調整しましたが、その後はF R Bの利下げ開始や、米国の経済指標の改善などから、上昇傾向となりました。中東情勢やロシアとウクライナとの間の戦争の先行きなどの地政学的リスクが嫌気されたものの、米国大統領選挙や議会選挙における共和党の勝利を受け、次期政権が減税や規制緩和などに積極的に取り組み、その政策も実行されていくとの見方などが強まったことで、米国を中心に株式市場は概ね堅調に推移しました。

2025年の初めは、中国のスタートアップ企業による低コストの生成AIモデル開発のニュースを受けて、AI分野をリードしてきた米国企業の優位性に懸念が生じることとなり、半導体関連銘柄を中心に世界的に株価が下落しました。4月には、米国トランプ政権が相互関税政策を打ち出し、中国がこれに対抗して報復措置を表明したことで、世界的な通商摩擦激化による景気悪化懸念が高まることとなり、株式市場は下落しました。ただしその後は、米国と中国の間で追加関税の一部撤廃や大幅な引き下げが合意されたことを好感して株式市場が回復に向かうなか、米国でAI関連の半導体企業やソフトウェア関連企業から好決算の発表が続いたことで、ハイテク関連銘柄の株価が力強い回復を見せ、相場全体をけん引しました。

ロボティクス関連銘柄の株価は、米中摩擦からの対中規制やAI関連投資の鈍化懸念を受けて関連銘柄の調整売りが広がった時期もありました。また米国の関税政策に対する警戒感を背景に世界的に株安となるなか、当ファンドが保有する銘柄の株価も下落を余儀なくされました。しかし2025年4-5月の決算発表のシーズンに入り、米国の大手半導体企業の好決算が発表されると、AI関連の半導体企業やソフトウェア関連企業からも好決算の発表が続き、ロボティクス関連銘柄も大きく値を戻す結果となりました。

**当ファンドのポートフォリオ**

（2024年7月23日～2025年7月22日）

**（当ファンド）**

当ファンドは、「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行ないました。

**（グローバル・ロボティクス株式マザーファンド）**

ボトムアップアプローチを重視し、大きな変革期にあるロボティクス市場で高い成長が見込まれると考える企業に着目した運用を行ないました。

当期間は引き続き情報技術セクター、資本財・サービスセクターなどを中心に、ロボティクス関連銘柄の中でもインフレによる価格高騰を転嫁できると判断する企業、景気がスローダウンしてもダウンサイドを抑制できると期待される企業などに投資を行ないました。

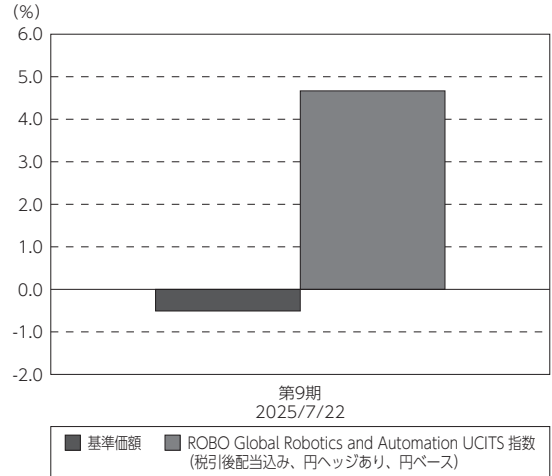
## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2024年7月23日～2025年7月22日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) ROBO Global Robotics and Automation UCITS 指数（税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース）は当ファンドの参考指数です。

## 分配金

（2024年7月23日～2025年7月22日）

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第9期
	2024年7月23日～ 2025年7月22日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	14,241

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### （当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行ないます。

### （グローバル・ロボティクス株式マザーファンド）

米国を中心に、AIエージェント（ユーザーが設定した目標に対し自律的に計画を立て、実行するAIシステム）の導入が多く分野で進んできています。このためハイパースケーラー（巨大なサーバーリソースを保有する企業の総称）によるデータセンター投資は依然として堅調であり、それを支えるインフラである半導体市場や電力供給ネットワーク市場も活況を呈しています。

今後も関税や財政悪化懸念による短期的な経済や企業収益へのある程度の影響は避けられませんが、生成AIからAIエージェント、そしてフィジカルAIへと、AIの技術進化はスピードが速く、また力強いものとみられます。AIを活用したアプリケーション、ハードウェアの開発は引き続き加速していくと考えています。こういった開発はまだまだ初期段階にあり、景気の波を経ながらも中長期で投資は増加方向にあるとの見方は変えていません。AI関連投資はこれまでの開発中心の投資から、開発投資と、それを利用してもらうための投資がバランスよく拡大していくものと考えています。

一層のデータ活用、関税によるサプライチェーン（供給網）見直し、賃金インフレなどは自動化・自律化の追い風となるほか、製造業を自国に呼び戻す米国トランプ政権の公約も自動化を後押しする材料となると期待しています。ロボティクス関連銘柄の魅力は中長期的な視点においても非常に高いとの見方が強まるものと考えます。引き続き現在のような株価変動は好機と捉え、バリュエーション（価値評価）重視の運用を続ける方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

### 約款変更について

2024年7月23日から2025年7月22日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

当ファンドについて、運用報告書（全体版）は電磁的方法により提供する旨を定めている規定につき、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に即した記載に変更するべく、2025年4月1日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第60条）

### <運用報告書の電子交付に関するご案内>

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正（施行：2025年4月）が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供に取り組んでまいります。

### その他の変更について

当ファンドについて、2024年10月23日付けにて運用における参考指数の表記を「ROBO Global Robotics and Automation UCITS Hedged to Yen 指数」から「ROBO Global Robotics and Automation UCITS 指数（税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース）」に変更いたしました。なお、上記変更は表記の明確化を意図したものであり、参考指数のデータ自体は従前のものから変更ございません。

日興アセットマネジメント株式会社は、2025年9月1日よりアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に変更いたします。また、ホームページアドレスも「[www.amova-am.com](http://www.amova-am.com)」へ変更となります。

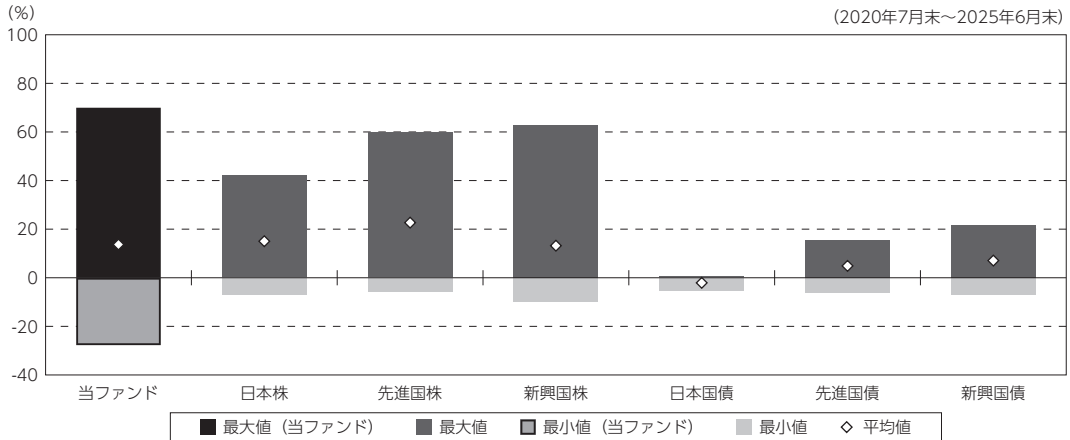
※本書が、受益者の皆さまのお手元に届く際には、社名変更が行われている場合がありますので、ご注意ください。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2017年1月23日から原則無期限です。	
運用方針	主として、「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	グローバル・ロボティクス株式ファンド (為替ヘッジあり・1年決算型)	「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル・ロボティクス 株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
運用方法	主として、「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。産業用やサービス用などのロボットを製作する企業のみならず、ロボット関連技術であるAI（人工知能）やセンサーなどの開発に携わる企業も投資対象とします。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行ないません。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	70.0	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値	△ 27.7	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 5.5	△ 6.1	△ 7.0
平均値	13.7	15.0	22.7	13.2	△ 2.1	4.9	7.1

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2020年7月から2025年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドの参考指数について

●ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数（税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース）

ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数（税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース）は、世界のロボティクス関連等の株式を対象にした指数です。同指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はVettaFiに帰属します。

指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

（2025年7月22日現在）

#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第9期末
グローバル・ロボティクス株式マザーファンド	100.9%
組入銘柄数	1銘柄

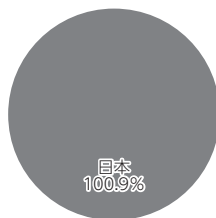
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

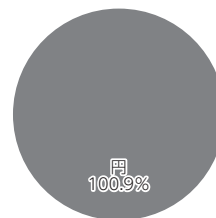
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

### 純資産等

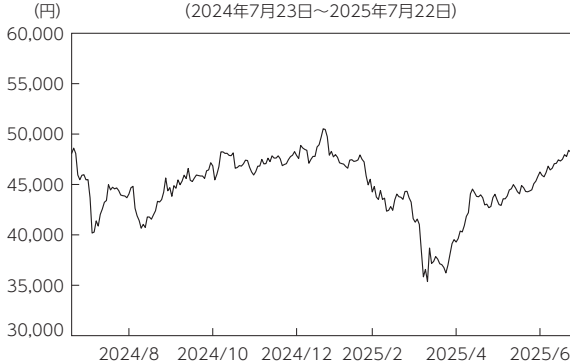
項目	第9期末
	2025年7月22日
純資産総額	14,538,089,957円
受益権総口数	5,997,075,351口
1万口当たり基準価額	24,242円

（注）期中における追加設定元本額は201,093,728円、同解約元本額は857,566,387円です。

組入上位ファンドの概要

グローバル・ロボティクス株式マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2024年7月23日～2025年7月22日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	5 (5)	0.011 (0.011)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	2 (2)	0.005 (0.005)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	6 (5) (0)	0.013 (0.012) (0.001)
合計	13	0.029

期中の平均基準価額は、44,781円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2025年7月22日現在)

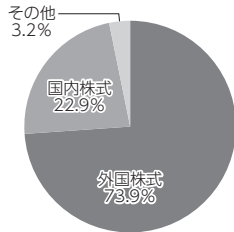
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 NVIDIA CORP	半導体・半導体製造装置	アメリカドル	アメリカ	4.7%
2 SIEMENS AG-REG	資本財	ユーロ	ドイツ	4.1%
3 INTUITIVE SURGICAL INC	ヘルスケア機器・サービス	アメリカドル	アメリカ	4.0%
4 ROCKWELL AUTOMATION INC	資本財	アメリカドル	アメリカ	3.7%
5 ABB LTD-REG	資本財	スイスフラン	スイス	3.5%
6 TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	半導体・半導体製造装置	新台幣ドル	台湾	3.5%
7 日立製作所	電気機器	円	日本	3.0%
8 MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	アメリカドル	アメリカ	2.8%
9 SYNOPSIS INC	ソフトウェア・サービス	アメリカドル	アメリカ	2.7%
10 EATON CORP PLC	資本財	アメリカドル	アイルランド	2.6%
組入銘柄数	54銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

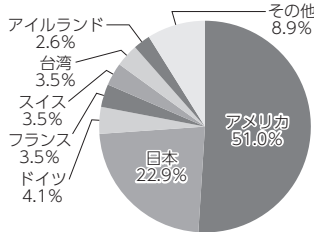
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

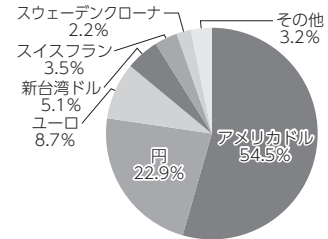
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。